

アートな川越

79



もうすぐ川越まつり。囃子を練習する音色が、あちらこちらで聞こえます。

夕方、提灯ちようちんを作っている店の前を通りました。防水のために塗った油を乾かすため、天井には、所狭しと提灯が下り下げられています。



まつり本番、日が暮れて、山車や会所に飾られる提灯に、あめ色の光がともると、色付けされた模様は、昼間とは異なった色合いに見えます。まつりで使われる提灯は、丸いものや縦長のものなど、大きさや形がさまざま。山車の人形の名前や、飾り文字にした町名、思い思いにデザインした桜や竜などが、描かれています。



デザインは、毎年変わることもあり、一つひとつを手書きで仕上げます。多いときには、二か月間で五百個を作ることもあるとか。提灯を見るのも、まつりの楽しみの一つになりそうです。

どんぐり

編集後記

元町1丁目の山車が、8台目の歴史文化遺産山車として登録されると聞き、取材しました。保管庫の中の山車は、思ったより大きく感じ、飾られた彫刻の細かさにも、驚かされます。人形は牛若丸。彫刻も牛若丸の一代記になっていて、この山車の自慢の一つになっているそうです▶歴史文化遺産山車は、県や市が文化財指定した山車以外で、築造後おおむね50年を経過した山車が対象。後世に正しく継承し、川越まつりの発展のために、町内からの申請により登録されるもの▶築造当時の様子が書かれた文書からは、町内の人たちが、山車築造に一致団結し、後世に伝えていこうという気概をうかがい知ることができます。今年も、その思いを受け継いで、それぞれの町の山車が曳かれます。



シソ(紫蘇)



246

取材先で独特の香りがしたので、辺りを見てみると、シソの花が咲いていました。写真は青シソ。赤シソは薄赤紫色の花が咲き、梅干しの色づけなどに使われます。薬味などに使われるだけあって、香りの存在感は群を抜いています。茎は角柱形で、側面に白く小さい花が、左右対称に付いています。四面それぞれに付いている花は、どれも太陽に顔を向けるように咲いています。下から咲きあがった花が、先端に数個残ったものは、天ぷらにして食べることができます。実の塩漬けなど、しばらく味覚も楽しませてくれそうです。